

英語系学科卒業生のキャリア形成に関する研究(3)

－卒業生の英語使用と英語教育への提言－

A Study on Career Development of Junior College English-Major Graduates(3)

－ Their Use of English and Suggestions for Improving Our English Education －

(2003年3月31日受理)

垣見 益子 橋内 幸子

Kakehi Masuko Hashiuchi Sachiko

Key words : キャリア形成, 英語使用, 英語教育, 実務教育

要 旨

本稿は、卒業生を対象に実施したアンケート調査の最後の報告である。本学英語系学科の卒業生の多くは、仕事、家庭、社会、その他、様々な場面において、英語を使用する機会がある。主に必要とされる英語の技能は、英語を使用する場面によって異なっている。

本学における英語教育に関しては、「話す力」、「聞き取る力」、「コミュニケーション能力」の養成に力を入れて欲しいという意見が最も多かった。

設問に対する回答や自由記述を通して、本科の卒業生が、英語教育と同様に、実務教育の必要性を強く実感していることが浮き彫りにされた。

I. はじめに

前稿、前々稿において筆者兩名は、卒業生対象のアンケート調査結果報告の報告として、実施要領、回答者の属性を詳細に述べた上で、短期大学がキャリア形成の面で卒業生から期待されていること、および卒業生の仕事の経緯についてまとめた。調査項目については、先行研究である産能短大とほぼ同じにし、第1弾では産能短大との比較検討も行った。

本稿では、シリーズ第3弾として、卒業生が仕事、家庭、社会、その他において、どのぐらい英語を使用する機会があるのか、どのような技能を使っているのか、などについてアンケート結果から考察する。そして最後に、様々な経験を経た卒業生が、英語教育やその他の本学科の教育について、どのような感想や提言を持っているのかを検証する。本稿で取り上げる質問項目は、筆者兩名

が独自に考案したものである。

本研究全体の目的と概要は前稿に記載した通りであるので、本稿では省略するが、回答者数および回答者の期間区分は再掲しておく。(表1)

表1 期間区分とその概要

	期間Ⅰ	期間Ⅱ	期間Ⅲ
卒業年度	1968～1979年	1980～1995年	1996～1999年
主な年齢層	41～52歳	25～40歳	21～24歳
資格の種類	○中学校教諭 免許状(英語)	○中学校教諭 免許状(英語) ○秘書士	○中学校教諭 免許状(英語) ○秘書士 ○上級秘書士
卒業生総数	460人	1379人	358人
調査票送付数	225通	719通	204通
回答者数	48人	182人	60人
調査票回収率	21.3%	25.3%	29.4%

注1) 回答者293人のうち3人は期間不明。

II. 卒業後の英語使用

1. 仕事における英語使用

1) 仕事で英語を使う機会

回答者293人全体を見ると、仕事において英語を使用する機会が「ほとんど毎日ある」と回答したのは11%、「よくある」2%、「時々ある」25%、「ほとんどない」27%、「全くない」31%であった。

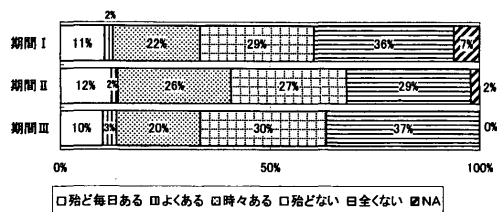


図 1-1-1 仕事で英語を使う機会 (期間別)
(n = 290 : I 期48, II 期182, III 期60)

回答者293人のうち、期間が不明である3人を除く290人の期間別の英語使用機会は、図1-1-1の通りであった。3期間の卒業生間にあまり大きな違いは見られなかった。

2) 仕事で使う英語の技能

少しでも仕事で英語を使う機会があると回答した191人が、どのような英語の技能を生かしているかを、頻度も併せて表したものが、図1-2-1である。

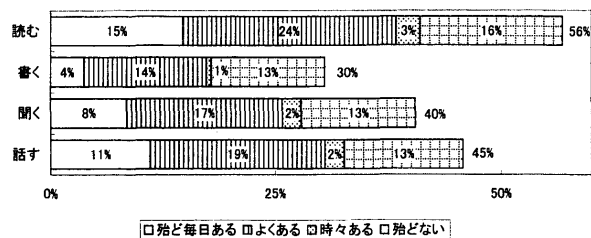


図 1-2-1 仕事で使う技能 (頻度別・複数回答)
(n = 191)

全体的に、最も多く使われている技能は「英語を読む」技能である。次いで、「話す」技能、「聞く」技能、「書く」技能となっている。

期間別に使う技能を見ると、「聞く」技能はどの年齢もほぼ同率であるが、III期の若い卒業生については、「話す」技能の使用率が最も高く、逆に「読む」技能の率が最も低くなっているのが、興味深い。年齢や経験に

よって英語を使用する仕事の内容が変わっていることがうかがえる。(図1-2-2)

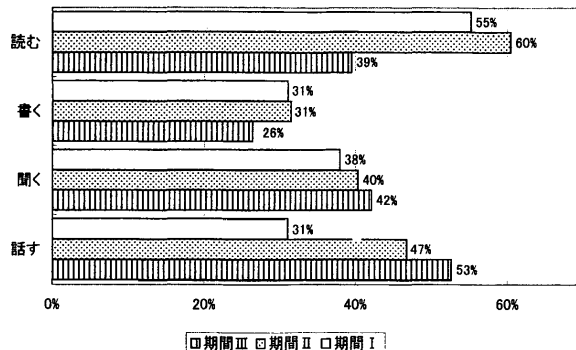


図 1-2-2 仕事で使う技能 (期間別)
(n = 191 : I 期29, II 期124, III 期38)

3) 仕事における英語使用の内容

英語が使われる具体的な仕事内容は、図1-3-1の通りであった。全体的に、「書類などを読む」と「対面で話す」が同率で最も多い。

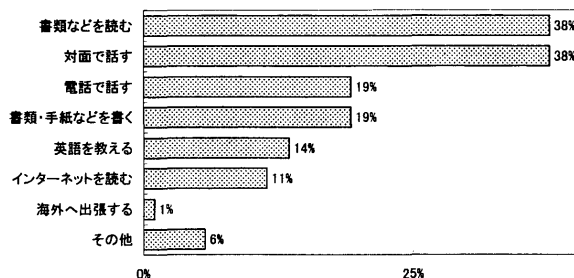


図 1-3-1 仕事で使う内容 (全体・複数回答)
(n = 191)

英語を使う仕事内容を、期別に分けると図1-3-2の通りであった。III期は「対面で話す」や「電話で話す」が他の期より目立って多く、II期は「書類・手紙などを書く」や「インターネットを読む」が多くなっている。I期は、「話す」ことが最も少ないが、「英語を教える」は突出して多い。

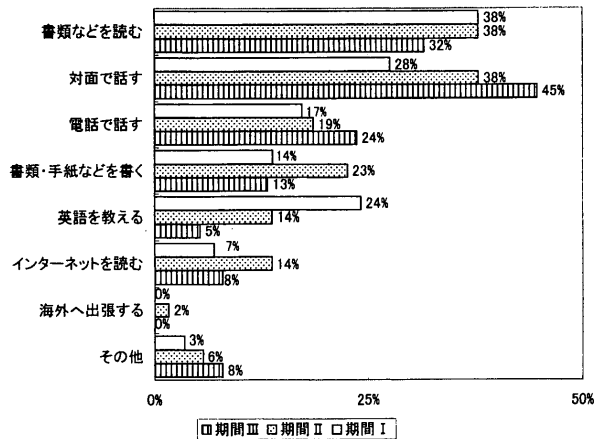


図 1-3-2 仕事で使う内容 (期間別・複数回答)
(n=191: I期29, II期124, III期38)

2. 家庭における英語使用

1) 家庭で英語を使う機会

次に家庭における英語使用について尋ねたところ、図 2-1-1 のような結果となった。I 期やII期に比べてIII期の卒業生が家庭で英語を使う頻度が少ないのは、年齢的なものが関係しているようである。III期にはまだ結婚していない、あるいは子供がいない人が多くおり、そのことが家庭での英語使用に影響していると思われる。

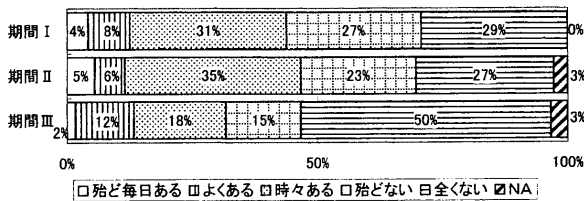


図 2-1-1 家庭で英語を使う機会 (期間別)
(n=290: I期48, II期182, III期60)

2) 家庭で使う英語の技能

図 2-2-1 は、家庭で英語を使用すると回答した191人が使う技能を、頻度別に表したものである。家庭では、

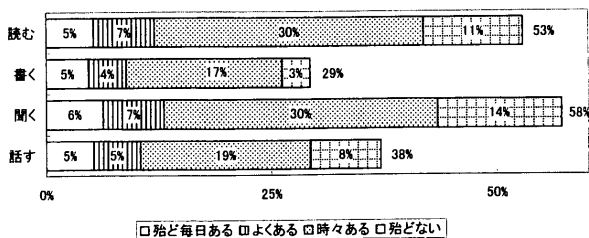


図 2-2-1 家庭で使う技能 (頻度・複数回答)
(n=191)

「聞く」と「読む」といった受動的な英語の使用が多くなっていることが分かる。

さらに家庭で使う技能を期間別に分けると、「聞く」は、卒業生が若くなるほど高率になっている。逆に、「書く」と「話す」は、III期が最も少なくなっている。(図 2-2-2)

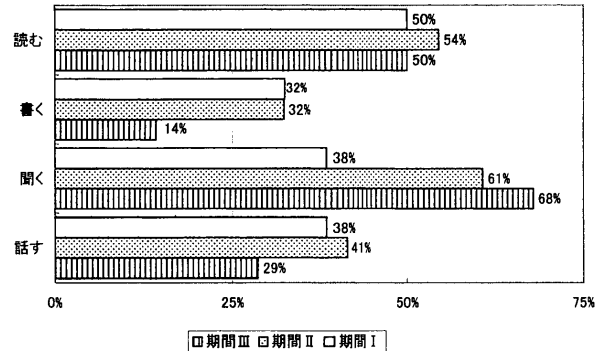


図 2-2-2 家庭で使う技能 (期間別・複数回答)
(n=189: I期34, II期127, III期28)

3) 家庭における英語使用の内容

家庭で使う英語の内容は、図 2-3-1 の通りであった。「英語の歌を歌う」が最も多く、「放送英語を利用する」、「子供に教える」が続いている。

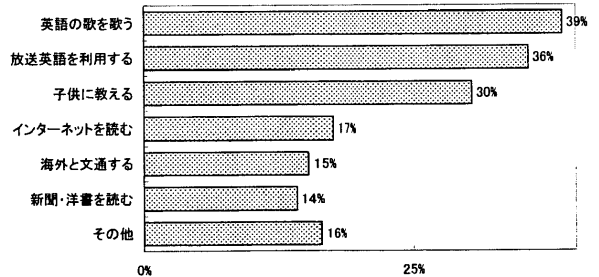


図 2-3-1 家庭で使う内容 (全体・複数回答)
(n=191)

期間別に見ると、I期の卒業生の「放送英語利用」が極端に少なく、逆に「子供に教える」が多くなっている。III期は年齢的に「子供に教える」が極めて少ない。II期は、家庭で英語を読むことが相対的に多い。(図 2-3-2)

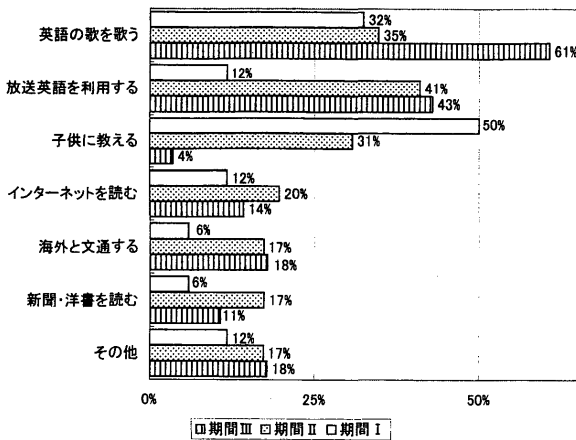


図2-3-2 家庭で使う内容(期間別・複数回答)
(n=189: I期34, II期127, III期28)

3. 社会における英語使用

1) 社会で英語を使う機会

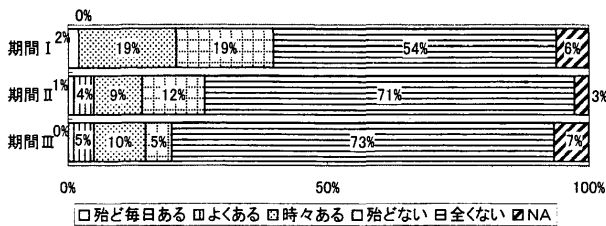


図3-1-1 社会で英語を使う機会(期間別)
(n=290: I期48, II期182, III期60)

社会で英語を使う機会は、全体的に仕事や家庭より少ない。期別に見ると、若い卒業生ほどその機会が少なくなっている。

2) 社会で使う英語の技能

図3-2-1は、社会で英語を使う機会がある79人がどのような技能を使っているのかを、表している。「話す」と「聞く」が群を抜いて多くなっている。

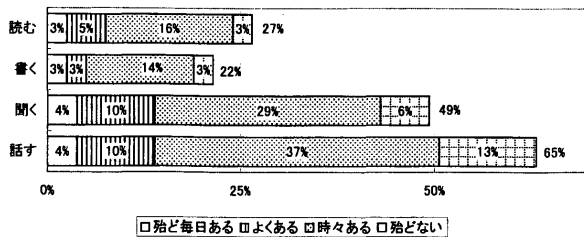


図3-2-1 社会で使う技能(頻度別・複数回答)(n=79)

期間別に見ると、全ての技能において、III期が最も使用率が高く、II期、I期の順に、だんだん低下している。

III期の卒業生の場合、社会で英語を使う人の8割が「話す」技能を、6割が「聞く」技能を使っている。(図3-2-2)

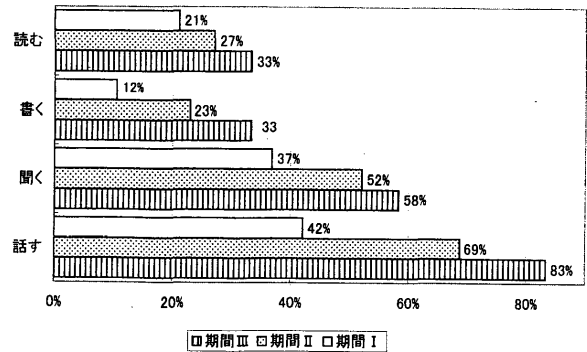


図3-2-2 社会で使う技能(期間別)
(n=79: I期19, II期48, III期12)

3) 社会における英語使用の内容

社会における具体的な英語使用の内容は、図3-3-1の通りである。「英会話などの教室に通う」が最も多く、「近所の外国人と話す」が次に多い。

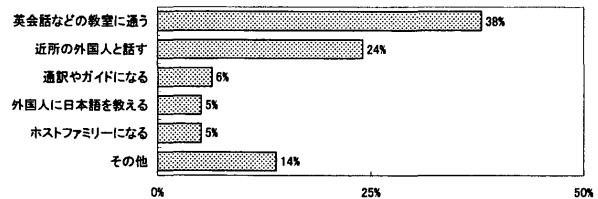


図3-3-1 社会で使う内容(全体・複数回答)(n=79)

期間別に内容を見ると、「英会話など教室に通う」のは、III期の卒業生に特に多いことが分かる。(図3-3-2)

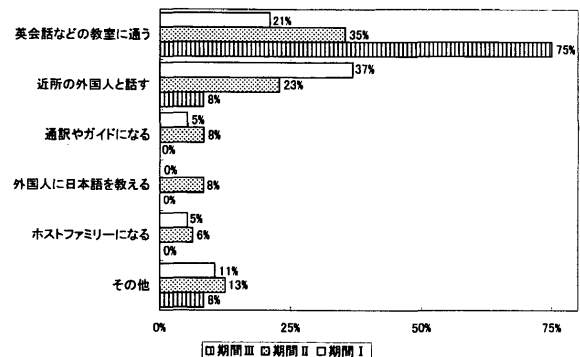


図3-3-2 社会で使う内容(期間別・複数回答)
(n=79: I期19, II期48, III期12)

短大を卒業した後でも、「英語を話す力」を強化したいという願望を持ち続けているのであろう。

4. その他における英語使用

1) その他で英語を使う機会

その他(海外旅行など)で英語を使う機会については、図4-1-1のような結果となった。期間別に見ると、II期がやや他の期間より多い。

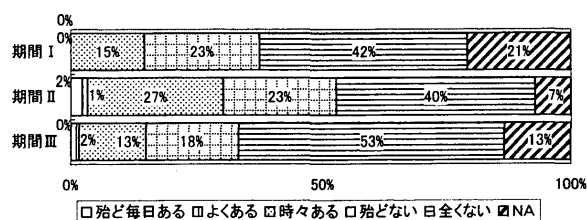


図4-1-1 その他で英語を使う機会 (期間別)
(n=290: I期48, II期182, III期60)

2) その他で使う英語の技能

その他(海外旅行など)で使う英語の技能の上位は、やはり「話す」と「聞く」である。(図4-2-1)

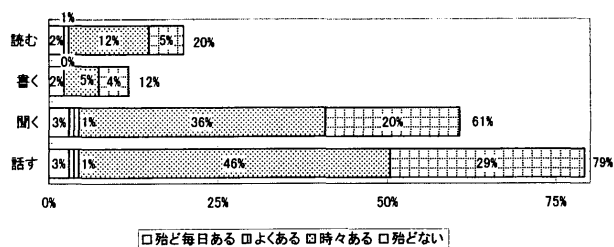


図4-2-1 その他で使う技能 (頻度別・複数回答)
(n=135)

期間別に見ると、II期の卒業生が、海外旅行などにおいて、より「聞く」や「読む」の技能を使っていると思

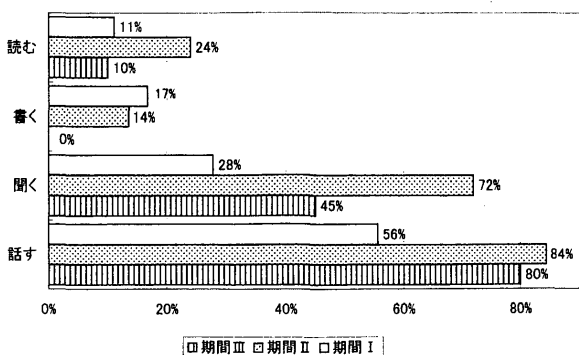


図4-2-2 その他で使う技能 (期間別・複数回答)
(n=134: I期18, II期96, III期20)

識している。I期の卒業生は、「話す」、「聞く」ともに他の期間より低い。(図4-2-2)

III. 英語教育などへの提言

1. 力を入れて欲しい能力

英語系学科の専門科目の中で、どのような能力に力を入れて教育して欲しいかを複数回答してもらったところ、1位は「英語を話す能力」で90%であった。

入学試験の面接で、入学後に学びたいことを質問すると、ほとんど全員と言って良いほど受験生が「英会話」と答える。卒業生の視点からも、「話す力」の強化を望む声が多いことが今回確認できた。

2位は「英語を聞きとる能力」(80%)、3位は「コミュニケーション能力」(61%)であった。続いて「異文化理解能力」(26%)、「英語を読む能力」(25%)、「英語を書く能力」(15%)、「その他」(4%)となっている。

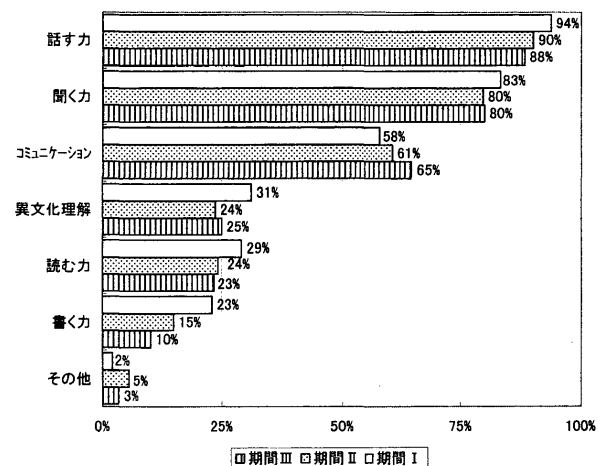


図5-1 力を入れて欲しい能力 (期間別・複数回答)
(n=290: I期48, II期182, III期60)

図5-1は、力を入れて教育して欲しい能力を期間別に表したものである。1位から3位までの項目は、全期間の卒業生によって、ほとんど同率で選択されている。4位以下も、率は下がるが、あまり期間による違いは見られない。ただ、「書く力」については、期間による開きがやや大きくなっている。社会経験やキャリアの長さに関係あるのであろうか。

2. 自由記述による提言・意見

具体的な項目を設定しての質問とは別に、本学にお

る英語教育やその他についての提言、意見、感想を、回答者に自由に記述してもらった。

それらをまず、大まかに「教育全体」、「英語教育」、「実務教育」、「資格」、「その他」の内容に分類し、さらに、それらを細分して18分類とした（細分類の詳細は後述）。

同一回答者の記述の中に複数分類にわたる内容が含まれている場合は複数の記述とした結果、自由記述の総件数は、I期45件、II期221件、III期73件、合計339件となった。回答人数比はI期94%、II期121%、III期122%といずれの期間も平均1人当たり1件前後であった。

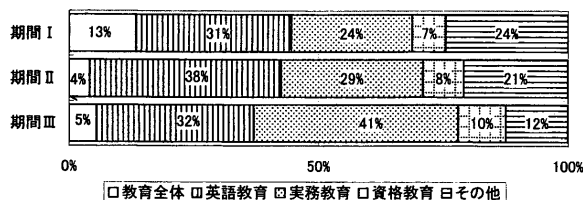


図5-2 自由記述内容比率（期間別）
（n=339：I期45，II期221，III期73）

図5-2は、各期間の大分類内容の比率を表したものである。年齢が若くなるほど「実務教育」に関する内容の割合が高くなっていることが分かる。

次に、記述内容を、さらに細分類しながら具体的にみていくことにする。

カリキュラムなどが時期によって異なるため、期間の異なる卒業生の意見を必ずしも一緒に論じることはできない面もあるが、共通に見られる内容もある。以下の項目では、期間を明示しながら記述内容の一部を引用し、それらの傾向を検証していくことにする。（○はI期，◎はII期，●はIII期の記述からの引用である）

（1）教育全体について

教育全体については、19件（I期6件，II期9件，III期4件）の記述があった。

- 実務に役立つようなコース分けをして、プロ意識を持った人材を育成してもらいたい。
- 福祉の時代ということで、その方面にも目を向けてはどうか。
- 英語にとどまらず、実社会に必要とされるものは、どんどん取り入れて有意義な授業をすることを望む。
- 短大が生き残るには、実社会に役立つ人材を育成することである。二年間は困難とは思いますが、私たちの時代の暖かい雰囲気

を残しながら発展していってもらいたい。

- 本気で学ぶ気があれば、二年間で得る「力」は大きい。
- ◎自分の意見がはっきり言えるように議題を決めてディスカッションをするクラスがあれば良い。
- ◎二年間はとても短く、もっと学びたかった。四年制もぜひ創って欲しい。
- ◎どんどん興味のあることに取り組み、知識も実践力から学び取ってゆけるくらいの力と教育内容がほしい。
- ◎「学ぶ楽しさ」を教えられたら良い。
- 全ての先生方が、一人一人学生のことを考えてくださる、熱心な方ばかりなので、引き続きこれからも指導して行っていただければと思う。
- 教育内容はあれで良かった。特にプレッシャーのあるハイレベルな授業は大変面白い。

（2）英語教育について

英語教育については、122件（I期14件，II期85件，III期23件）と最も多くの記述があった。さらに細分類すると「英語教育全体（27件）」、「英会話（40件）」、「リスニング（5件）」、「実務英語（26件）」、「海外研修・留学（17件）」、「異文化理解（5件）」、「その他（2件）」となった。

以下、各細目について一部を引用する。

① 英語教育全体（I期1件，II期22件，III期4件）

- 海外旅行が一人でもできるので、英文科は死ぬまで役に立つ科であると思う。
- ◎これからの学生には、英文法ではなく、英語を通じて幅広い分野からの知識を教え、個性豊かな感性を持った、時代に対応できる柔軟な人間形成を願っている。
- ◎英語の授業は全部英語にし、強制的に慣れることが必要。
- ◎英語を使う職業には就いていないが、日常英語に接する機会は多い。
- ◎世の中の生きた教材を多く取り入れて、専門分野+α（ダブルスキル）を身につけた学生が、世の中に貢献できる環境作りをどんどん進めていただきたい。
- 使える英語を勉強することが一番大切だと思う。
- 少数のオールイングリッシュの授業は、専攻科だけの特権とするにはあまりにももったいない。とても楽しかったので。

② 英会話（I期3件，II期27件，III期10件）

「話す力」がつく授業の必要性を訴える記述が多数の卒業生から寄せられた。今までもそのニーズに応えるべ

くカリキュラム改訂を重ねてきたが、一層の努力が今後
も望まれていることが実感できた。

- 話せる英語を身につける教育に力を入れること。
 - 実用的な英会話を学ぶ機会を多く作る。
 - もっと外国人の先生の授業を増やして欲しかった。
 - 卒業後しばらくは仕事上英語を使う機会もあったが、家庭に入るとその機会も少なくなったので、在校生の方には在学中できるだけ英語に触れる機会を多く作って欲しいと思う。
 - 英語を話す授業をもっと増やした方がよい。
 - 日常会話の充実と、広い視野で社会を見ることの指導をしてもらいたい。
 - 私は会社で毎日英語を使うが、特に会話能力をアップできるともっと役に立つのではと思う。
 - 英会話のクラスはもっと少人数の方がいいと思う。
 - 文法より、英会話やリスニング重視の授業が多い方が、実践的な英語が身に付くと思う。頭で覚えるより身体で覚える感じ。
- ③ リスニング（Ⅰ期1件、Ⅱ期3件、Ⅲ期1件）
単独に記述されている件数は少ないが、話す力とセットで記述されているものを含むと更に多くなる。ニュースの聴き取りは、既に「メディア・イングリッシュ」で実現している。
- 聴く力をつけてほしい。私は洋楽が好きなので、AFNを聴いて毎日耳を鍛えている。
 - 卒業後ヒアリング力の無さと新聞を読んでいないことを痛感。ニュースの聞き取りを授業に取り入れたら面白いと思う。
 - ヒアリングに力を入れて欲しい。
 - 社会人になってから、読み書きよりヒアリングに力を入れておけば良かったと思う。私の場合は海外からの電話を受けるだけだが、早口で聞き取れず困っている。
- ④ 実務英語（Ⅰ期6件、Ⅱ期15件、Ⅲ期5件）
「実務英語」は貿易の実務と通信文を扱う科目であった。また、「秘書英語」では毎週比較的長い会話をロールプレイを伴い暗唱する課題を出していた。いずれも決して楽な授業では無かったはずであるが、卒業後のキャリアにおいて役に立ったようである。就職難の今日、実践的な英語力が一層期待されているようである。
- どの職業についても英語は必要だということが身にしみて分かった。
 - さまざまな仕事をしてきたが、英語力を要求され、学生時代に頑張った分だけ自信が持てた。

- 卒業時には、英語を話せること、貿易実務は理解しておくべきである。
 - 就職先によって必要とされる能力が違うので、困ったことがあった。貿易会社では当時のカリキュラムが役立ったが、外資系企業に転職したときは能力がついていかなかった。
 - 時には卒業生を短期的な講師として、企業現場でのサンプルを扱う授業をしても良いと思う。
 - 短大で英語を学んだことが仕事で役立っている。ビジネス英語、英会話、時事英語、音声学などで学んだこと全てを生かしてこれからも頑張るつもりである。
 - 最初の仕事の時は、ワープロを使用して英語の書類を作成していたので、短大で学んだことのいくつかが役に立った。
 - 実務で役立つ、英語での電話対応の練習が必要。会社内で必要になってくる場合があり、リスニング力や正確な発音も必要。
 - 実務英語の授業は大変役に立った。
 - 専門分野を学ぶことによって、社会でもすぐそれを使う事ができ、嬉しく、また誇りに思っている。これからの社会は、英語なしにはやっていけない。
 - 秘書英語を学んだので、仕事（ホテルのフロント）に大変役立った。
 - ビジネス的な英語をもっと勉強しておけばよかった。
 - 社会に出て、習っていない機械関係の英文を訳してとか、英語はペラペラとか思われ困ったことがある。就職先が決まったら、その人の就職先で役立つ分野の勉強を取り入れてはどうか。
 - 特に、秘書英語関係の授業が今の仕事で大変役に立っている。
 - 秘書英語のような実践的なものが良い。口に出して言うこと、対話を人前ですることで、実際にそのような場に出くわした時、対応の仕方や気持ちの面でプラスになる。
 - 卒業後、金融関係の外国為替を扱う事務をしていたので、英語と接することができ、中短で学んだことはとても役に立った。
- ⑤ 海外研修・留学（Ⅰ期3件、Ⅱ期12件、Ⅲ期2件）
- 英語圏の国の大学と姉妹校を作り、数ヶ月から半年間、交換留学制度を作る。
 - 英文科卒というと英語を話せるというレッテルが貼られるので、在学中に休学制度を設けて、半年から一年程度留学する必要性があると感じる。
 - 外国へ行くチャンスを広げて、行きやすい環境を作ると良い。
 - 今、国内外を問わず多くのお客様が来る職場にいます。短大で勉強した英語とアメリカでのホームステイの経験がとても役に立っています。

●日本で日本人に囲まれ、日本語の中には、英語の上達は困難である。学生時代にホームステイに参加したり、ホストファミリーになったり交換留学生になったりすると思う。

⑥ 異文化理解（Ⅰ期0件、Ⅱ期5件、Ⅲ期0件）

- ◎まず、自分の文化を何か一つでも良く知っておくことが必要。英語を使うことは異文化と触れ合うことなので。
- ◎文化、歴史などの異文化理解を前提とした上で、コミュニケーション・スキルの向上を目的としたカリキュラムを組む。
- ◎異文化に触れるのは、考え方に大きな変化が現れるのですばらしいと思う。

⑦ その他（Ⅰ期0件、Ⅱ期1件、Ⅲ期1件）

- ◎英語の速読力の強化が役に立った。
- ディベートのクラスを作ってみてはいかが。自分の意見を的確に伝えるということはとても重要だと思う。

(3) 実務関連（英語以外）について

英語教育のみでなく、実務に関連した教育内容の必要性、有効性が様々な形で表現されている。

① O A 機器（Ⅰ期5件、Ⅱ期20件、Ⅲ期10件）

現在は、インターネット、エクセル、ワード、パワーポイントに習熟できるカリキュラムを組んでいるが、その必要性が再確認された。

- ◎英文タイプを習い、英文タイプ部を作って役に立った。英会話だけでは志望先に就職できなかったと思う。
- ◎英文タイプを習っていたので、社会に出てパソコン導入にスムーズに適応できた。
- ◎どんな職場でもコンピュータ技術は必要と思う。必ず少しは使えるようにしておいた方がよい。
- ◎在学中に、就職用にパソコン関係のソフトを使いこなせるような授業をする。
- ◎今後は、やはりパソコンを使いこなせることが就職の最低条件だと思うので、力を入れてほしい。
- ◎パソコンでエクセルとワードが使いこなせるのが採用条件になっているので、この二つはマスターしておくべきである。
- 今はあるかも知れないが、インターネットやワード、エクセルを活用できるといいと思う。
- O A 機器を使うところが殆どなので、もっとO A 機器の時間を増やした方がいい。
- 今の時代、パソコンが使えないとアルバイトも務まらない。エクセルやアクセス、LANまで勉強する必要があるので、しっかり勉強するべきである。

●入社してすぐO A 機器が使いこなせたので、上司に驚かれた。

② 秘書教育（Ⅰ期0件、Ⅱ期24件、Ⅲ期20件）

秘書教育はⅡ期から始まったので、Ⅰ期の記述はない。Ⅱ期、Ⅲ期の記述には、秘書教育内容が社会で役立ったことが異口同音に記されている。現在、秘書教育はビジネス実務教育に引き継がれている。

- ◎秘書教育は、会社におけるマナーに役立つものなので、勉強しておいて良かった。教養、社会の常識にも関係するので就職するにあたって必要な学科だと思う。
 - ◎秘書実務で学んだことが職場と生活の場で役に立っている。勉学もさることながら、それ以前の常識的なことに対しての向上にも尽力して欲しい。
 - ◎一番役だったのは秘書士関連のことだった。
 - ◎秘書実務の授業はとても役に立った。礼儀、マナーは社会に出てすぐ必要になるので大切だなと実感した。もっと勉強しておけば良かったと思ったのは、社内・社外文書の書き方。特にお礼状やクレームに対する文書等は授業で取り上げてほしい。
 - 卒業してからずっとホテルのフロント係を務めてきたが、その中で秘書の授業で学んだことがとても役に立っている。
 - 銀行で働いていた時、秘書士の勉強で学んだ電話応対、礼儀・マナーなどは非常に役立った。
 - 秘書教育を通して習得したことは、どの仕事でもとても役立っています。今でもその時の教科書を広げて調べています。
 - 秘書関係の授業は社会で役に立つと思う。私はあまり勉強しなかったのですが、社会に出て困っている。
 - 電話応対が一日の業務を大きく占めているので、秘書関係の授業は大変役に立っている。特に言葉使いや慶弔の知識などに重点を置くべきである。慶弔の知識も役に立つ。案外皆知らないものだ。
 - 秘書士の科目で勉強したことが役に立ち、上司からもほめられている。
 - 自分の希望通り「秘書」の関係の仕事を経て、会社の心臓部と言える部署にいる。短大で学んだ秘書教育、特に礼儀、マナーは役に立っている。
 - 秘書の授業以外にも、礼儀・マナーを学べる授業や機会があればいいと思う。
- #### ③ インターンシップ（Ⅰ期0件、Ⅱ期1件、Ⅲ期1件）
- ◎学校内の勉強だけでなく、今回学校が導入したアルバイトなどで単位を取得できるような制度は良いと思う。
 - ◎インターンシップの必要性。一週間程度のチャンスがあればいい

のにと思う。

④ 人間力・その他 (I期6件, II期12件, III期0件)

礼儀・マナーなど秘書教育と重複する内容もあるが、特に秘書教育に触れていないものは、この項目とした。若いIII期卒業生の記述はなかった。

○就職の際には、専門を生かすということよりも人間力をつけてから臨むべきである。

○これからの就職に当たって必要なものは、全て問13¹⁾にあると思う。

◎問13¹⁾をポイント制にして社員を評価する会社もある。

◎社会に出ると人間関係がとて大変だと思う。接客のマナーや言葉遣い、協調性を身につけておく方が良い。

◎社会人として忍耐力をつけることが必要である。何をしても大変であることを、もっと知ってほしいと思う。

◎一番大切なことは、成績ではなく、社会人としての一般常識、マナー、豊富な知識であったと感じている。

◎学生時代から社会に加わって(アルバイトやボランティア)活動していれば世の中のことも理解しやすく、学校内で学ぶことにも積極的に取り組みやすくなる。

(4) 資格教育について(I期3件, II期19件, III期7件)
どの期間の卒業生も、異口同音に各種検定への取り組みの必要性を説いている。

○TOEIC受験に役立つ授業をする。

○取得できる資格を、自分に合わせて色々選べるカリキュラムをつくと学生も集まってくる。

◎転職の際、短大時代に取得した秘書検定の資格が役に立った。

◎現在、銀行に勤めているが、昇格のためには、秘書検定などの資格を取得してポイントを増やす必要がある。短大時代にもっと資格を取っておけばよかった。

◎秘書検定や、教職の時パソコンを使ったことが、仕事に就いたとき、スムーズに社会に入れたと感謝している。

◎学生時代に取得した英文タイプの級や秘書検定の資格は、社会人になる前の準備としては役に立ったと思う。

◎英検も1級までとりたかった。重点的に指導して下さったらと思う。

●どのような職業についても、自己啓発意欲が問われてくると思うので、資格取得などにおいても積極的にチャレンジしてもらいたい。

●家庭教師や英会話関連の会社に就職する場合、検定など資格も、始めの段階では重視される事も多かった気がする。在学中に、

資格試験を積極的に受けるよう、指導していかれてはどうか。

社会に出てしまうと、機会や環境の面で困難。

●就職難の時代、新卒の場合、資格のあるなしは、学生時代に向上心を持って学んだかどうかのパロメーターになると思う。

●学生時代には、一つでも多くの資格(検定)を取ってもらいたい。努力家であることが認められる。社長が以前、「中短の子は、実践に強いから採用したくなるんだ」と話していた。

(5) 就職指導について(I期1, II期19件, III期5件)
既に本研究の(1)で報告したように、就職指導の強化を求める意見が寄せられた。

○少しでも英語が役に立つ仕事を捜してほしい。

◎英語を活かせる職種につける人は少ないので、その他の業種や職業についての詳細をもっと指導してほしい。

◎在校生と卒業生の情報交換がスムーズにできるよう、学校でバックアップしてあげるべきである。特に就職面で。

◎早めの就職指導など、助かりました。

◎就職の際に、必要な科目を取り、資格を取り、礼儀や人づきあいを学ぶこと。短大に進むという事の意義を入学と同時に考えてもらう時間を設けてはどうか。

◎在学中の学生に対する進路学習の徹底、情報をできるだけ多く流し、進路に対する意識付けをする。卒業生の活躍等を話すのもよい。

◎学科の枠を超えて幅広く各種資格の情報公開をして欲しい。

◎履歴書の書き方、面接への準備など、細かく指導していただいたので、就職試験や面接に臨む際、困らなかった。

●最初の職場で長く続けられる人ばかりではなく、二度目の職場の方が長く続いている人もいるということも知ってほしい。

●何がしたいのか、何ができるのかをもっと学生に自分自身で考えさせることが大切。自分の経験からの結論である。

●就職活動を一年目からした方がいい。

(6) 生涯教育について(I期3件, II期10件, III期0件)

○社会に出たり、家庭を持ってから、本気で英語を勉強したくなった時に、卒業生のために英語の力をつけて資格に直結させるようなセンターを造る。

◎就職して、資格の必要性や授業内容の大切さを痛感する事はよくある。学生の授業を少し専門化した卒業教育をやってはどうかと思う。授業後の2~3時間や土日を利用して、資格取得のための授業があれば良い。

◎短期講習のようなものがあれば受講したい。学生時代は授業が面倒くさいと思った事もあるが、就職してお金の大切さが良く

分かったため、逆に授業を受けたいと思うようになった。

◎現在、カナダにいますが、日本と違うのは社会人向けの大学教育が充実していることである。コースが多く、参加しやすい。

◎英検、TOEIC、TOEFL等の試験対策的な講座を社会人のために設けてほしい。独学ではなかなかむずかしい。

(7) その他 (I期7件, II期17件, III期4件)

その他、自分の短大時代を振り返った感想、反省なども見られた。

◎公開講座 (パソコン) を先日受講したが、キャンパスがきれいになっているのが嬉しかった。

◎学生時代にあまり勉強してなくて、子供の関係で外国の人と話す機会があっても話せないのが悔しい。もっと勉強しておけばよかったと思う。

◎同窓会を開いて欲しい。

◎以前中国短大の卒業生の子供の入学金の免除をしてはどうかという案があると聞いたことがある。ぜひ実現させてほしい。

◎英語を活かせる仕事をしたいと思っていたが、中途半端で自分の努力不足であったと思う。

◎在学中、やる気のない学生だったが、人生を歩む中で苦労し、やはり、勉学に励める時は頑張るべきと思う。

●中短の学生生活はとても楽しかった。今でも、その時の友達とは会って話しをしたりしている。

●英文科を卒業したのに、来店される外国の方とちゃんと話せず、辞書片手に苦戦中。環境は整っていたのに、もっとネイティブの先生と話して、話す、聞く力をつけておけばよかった。

IV. おわりに

「せっかく短大で英語を学んだのだから、英語力を生かせる仕事をしたい」というのは卒業生の共通の思いであろう。だが現実には、だれもがそういう職場に恵まれるわけではない。正直なところ、筆者達は卒業後の英語使用について、かなり悲観的な予想をしていた。

しかし、調査の結果回答者の4割近くが、「ほとんど毎日」または「時々」仕事で英語を使用する機会があるということであった。この結果は、筆者達の予想を越えるものであった。現在英語の学習に取り組んでいる在学生たちにとって励みになることであろう。

また、職場で使うことが無い卒業生でも、日常生活の中で意識的に英語に接していこうとする姿勢がうかがえ

た。そして、更に現在英語の学習を続けている、あるいは続けたいという気持ちを持っている卒業生が多いことも理解できた。

紙数の関係で、卒業生達の生の声を全て掲載することはできなかったが、少しでもそれらを生かすべく、カリキュラムの改訂など、一層の学科教育内容の改善に取り組んでいきたいと思う。

本研究は、卒業生へのアンケート調査を通して英語系学科における教育への様々なヒントや提言を検討するものであった。今回でその報告を完結するに当たって、多忙な生活の中で時間を割いて多くの項目に回答し、貴重な意見を記述してくれた卒業生に、改めて深く感謝したい。

参 考 文 献

- 1) 垣見益子・橋内幸子共著「英語系学科卒業生のキャリア形成に関する研究(1)ー卒業生が短期大学に期待するものー」『中国短期大学紀要 第32号』2001年6月
- 2) 垣見益子・橋内幸子共著「英語系学科卒業生のキャリア形成に関する研究(2)ー卒業生の仕事の経緯ー」『中国学園紀要 第1号』2002年6月
- 3) 『産能短期大学卒業生に関する、職業と仕事の経歴についての調査報告』産能短期大学能率科 1999年4月

注

1. 問13の項目は、以下のようなものであった。
 - 1) ビジネス環境理解能力
 - 2) 教養・社会常識
 - 3) 自己啓発意欲
 - 4) 事務処理能力
 - 5) 自己表現能力
 - 6) 専門知識・技能
 - 7) O A 機器操作能力
 - 8) 語学力
 - 9) 情報活用能力
 - 10) 創造力
 - 11) 判断力
 - 12) 折衝・調整能力
 - 13) 企画・分析力
 - 14) 忍耐力・持久力
 - 15) 責任感
 - 16) 実行力
 - 17) 営業力
 - 18) 会社へのロイヤリティ
 - 19) リーダーシップ
 - 20) 気配り、人あたりの良さ
 - 21) 体力
 - 22) 各種資格
 - 23) 礼儀マナー
 - 24) システム設計能力
 - 25) プログラミング能力